令和５年３月２４日
日本原子力研究開発機構
核燃料サイクル工学研究所

令和４年度 核燃料サイクル工学研究所総合訓練で抽出した課題と対策について

１．はじめに

令和５年２月２１日に実施した核燃料サイクル工学研究所（以下「核サ研」という。）総合訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策を検討した。対策については、次年度の訓練で改善状況を確認する。

２．改善検討の進め方

機構内外からのコメント（訓練評価者による評価結果、訓練後の振り返り、アンケート等）から本訓練における課題を抽出した。抽出した課題について原因分析を行い、対策を立案した。

また、訓練目的や達成目標を踏まえ、重要度が高いと判断した課題を「主な改善事項」とし、訓練で抽出した具体的な問題点を含めて整理した。主な改善事項は、次の2項目である。

(1) 複数拠点からの緊急性を考慮した情報共有
(2) 応急対策の優先順位の理由の説明

３．主な改善事項

(1) 複数拠点からの緊急性を考慮した情報共有

【問題点】

核サ研でSE02/GE02が終息し、一方で原科研のSE-R3-21が進展していく状況下、機構TV会議システムで核サ研から機構対策本部へ状況報告中に、原科研からのGE-R3-21判断の緊急連絡が重なり、原科研からのGE-R3-21該当判断の迅速な通報の妨げとなった。

【課題】

原科研でのSE-R3-21事象がGE-R3-21へ進展していく状況において、より緊急性の低い情報の機構TV会議システムによる共有は積極的に控えるという対応ができていなかった。

【原因】

原科研の発生事象の重要性を認識しながらも、緊急の情報があれば「緊急」と発話して割り込むルールとなっていたため、発話のタイミングがあれば早くかつ確実に機構対策本部へ情報共有すべきとの考えがあった。

【対策】

他拠点の発生事象が重要な局面（特に、SEやGEの判断に近づいている局面）になっている場合は、緊急の情報が入ることを考慮し、より緊急性の低い情報のTV会議による共有は控えることを周知・教育する。

(2) 応急対策の優先順位の理由の説明

【問題点】

排風機の停止ではなく切替えを優先して行う理由の説明がなかった。

【課題】

現場から応急対策の内容と優先順位の説明は行ったが、排風機の停止ではなく切替え対応

を優先する理由まで説明しなかった。

【原因】

SE02/GE02（放射性物質の放出）は、起因事象が発生したら短時間で該当条件に到達し、応急対策が今回のように排風機の切換え対応であれば短時間で解消される。そのため、発災現場から応急対策を優先順位の根拠を併せて説明することは、SE02/GE02に係る対応の進展の速さに対し、ERCへの応急対策の伝達が遅くなることにつながる。

本訓練では、応急対策の内容と優先順位は現場から早い段階で説明され、ERCへも伝えることができたが、排風機の停止ではなく切替え対応を優先する理由の説明までは行わず、その結果、ERCへ排風機の切替えを優先する理由が伝えられなかった。

【対策】

SE02/GE02のようにEALへの該当判断から解除までの進展が速い事象については、現場からの説明は、応急対策の内容（優先順位含む）をいち早くERCへ伝達することを念頭に簡潔に行い、優先順位の根拠等は、核サ研ERC対応ブースから直接ERCへ補足説明することとし、ERC対応者への教育内容に反映する。

４．その他の改善事項

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	情報共有	ERC への説明において、何処の拠点の説明資料か視覚的に分からなかった。	拠点の ERC 対応ブースから書画装置で説明する時、資料にも画面上にも拠点名称が表示されていない。	拠点側の書画装置の背景に拠点名を表示する。
2	訓練進行	ERC との訓練終了後にも通報文を送付した。	情報班等が ERC との訓練が終了したことに気付くのが遅れた。	ERC との訓練が終了したことをコントローラが現地対策本部内に周知する。
3	指揮命令	現地対策本部において、情報統括者等の指示が機構 TV 会議システム等の音声に紛れ、誰にどのように(正しく)伝わったのかが分からなかった。	機構 TV 会議システム等の音声が飛び交う状況下で、対応を指示する側と指示を受ける側の声がかき消された。	対応を指示する側と指示を受ける側は、大きな声ではっきりと発話・応答することを基本とし、機構TV会議システム等の音声が飛び交う状況下では、状況に応じて伝達方法を工夫することを周知・教育する。

以上